



おばあちゃんが出かける時は
いつもお母さんが一緒に出かけます。



以前、出かけたおばあちゃんが、
道に迷って帰れなくなり、



お巡りさんに
連れてきてもらったことがあるからです。



今日はぼくもお母さんと一緒に、
おばあちゃんの後を付けて行きました。



おばあちゃんは若い頃に
小学校の先生をしていたのです。



朝になると、学校へ行くと言って
出かけることがあります。



今日は近くの公園へ行きました。公園では大勢の子供たちがラジオ体操をしていました。



おばあちゃんは「イチ、ニイ、イチ、ニイ、」
と掛け声をかけながら



元気に体操する子供たちを眺めて、
にこにこしながら何度もうなずいていました。



「おばあちゃん、そろそろ帰りましょうか」とお母さんが声を掛けると、



おばあちゃんは
「もう、帰らないとおじいちゃんが心配するね」



と言いながら、
しっかりとした足取りで家に向かいました。



おじいちゃんは5年前になくなっているのです。



昼ごはんを食べて
みんなでお茶を飲んでいました。



「わしの財布がない」と言いながら



仏壇の棚や箆笥の引き出しをひっくり返してさがしています。



「なんぼ探してもわしの財布が見つからん。」



久美子さん、私の財布を隠したんは、
あんたじゃろう」



いつものおばあちゃんの優しい顔が、
とても怖い顔になっていました。



「財布がなくなっただんですか。それは大変ですね。私も一緒に探しますから、その前に一休みして、



みんなでお茶でも飲みましょう」



みんなでお茶を飲んでいるとおばあちゃんは、
財布のことはすっかり忘れているようです。